

# 30周年記念会報

発行日：令和4年10月吉日  
発行者：佐沼高校関西同窓会

## 30周年に寄せて

会長 高橋正義 (高18回)

令和4年9月1日佐沼高校関西同窓会は30周年を迎えることができました。

楯円の球を抱え男が走る花園に魅せられて30年。

滂沱の涙と汗を糧に堪え鍛えて雌伏30年

「東北の古豪復活ののろし」と新聞紙上に躍り謳われた昨年の第22回全国高校選抜ラグビー大会推薦枠で初出場を果たして関西同窓生の胸を再び熱くしてくれました。平成27

年3月1日ヒーローズカップ全国大会(小学生対象)の花園に出場した佐沼プラタナスJrのメンバーが佐高益荒男の中核として強靱なONE-TEAMに成長し今回の快挙に繋がりました。それを支え続けた後輩達の指導は素晴らしく賞賛されるべき事と思います。今も大粒の雨と寒風の花園でのノーホイッスルトライは忘れられません。

創立以来、有為な人材生んだ我が母校佐高。個性豊かな達才たちが文武両道を窮め励み磨く後輩達がまた関西に居る佐高同窓に心を揺さぶる熱き感動を与えてくれると思います。あの故郷の清流を聴く追川、春秋のプラタナスの学び舎を想い合わせている関西の私達がいる。

数年に及ぶコロナ禍は人々の心を分断にするに等しい難敵ウイルスです。総会も催事も開催出来ずに今日に至る事は誠に残念至極ですが佐沼高校関西同窓会30周年記念会報誌を発行出来た事は会員皆様方のご支援ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。佐沼高校関西同窓会30年目の記念の節目の証しとしました。社会は複雑多様化し分断不寛容な世情を覚えますが大波小波の荒海をも小舟ですが皆さんと共に漕ぎ続けて行きましょう。

コロナ禍、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。また、本部関係者の皆様よりの長年の御支援に心より厚く感謝申し上げます。



現校舎



旧校舎(唯一のカラー写真・昭和38年頃)



旧正門と旧校舎



上段：1991.12 第71回全国高校ラグビー大会出場チーム



下段：2021.3 第22回全国高校選抜ラグビー大会出場チーム

## 関西で歩み続ける同窓

秋山 (佐々木) 真由美	高26	佐藤 清	高13
飯田 道稔	定35	佐藤 正	高26
井口 (大槻) 照子	高18	佐藤 林蔵	高11
石川 (千葉) 晶子	高8	下志万 (伊藤) 真喜子	高26
伊東 卓夫	高14	渋谷 謙	高11
伊藤 通康	高26	下村 (金野) 智子	高31
伊藤 (千葉) 善朗	高21	首藤 勝見	高9
糸永 (樋口) 悦子	高47	菅原 秀倫	高34
岩渕 八洲子	高15	鈴木 次郎	高14
上原 米蔵	高14	鈴木 寛	高9
氏家 征夫	高16	高橋 静雄	高10
江崎 (佐藤) 英子	高22	高橋 正義	高18
及川 信三	高25	高橋 守	中41
大久保 (千葉) 恵子	高9	高橋 (佐藤) 道子	高18
大坂 誠	高26	田代 安則	定6
大竹 (大谷) カツ子	高7	千葉 (武川) たけ子	高6
大友 克朗	高8	都築 憲	高17
大山 宏	高7	津花 芳紀	高19
落合 (加藤) 明子	高23	寺村 治男	高14
小野寺 昇	高26	中野 (千葉) のり子	高20
小野寺 弘三	併1	西田 (布澤) 久美恵	高47
加藤 正治	高9	西村 (岩崎) 妙子	高8
金内 (中野) 愛子	高22	畠山 量	高26
川上 (沼倉) 達子	高26	前川 (菅原) ルミ	高20
北田 (松田) 清子	高22	宮田 (岩崎) 幸枝	高14
北村 (嶋村) 洋子	高25	宮脇 (伊藤) 哲子	高18
熊谷 伸夫	高12	山内 智雄	高14
齋藤 洋一	高5	(旧姓)	(卒業)
斉藤 良逸	高8	敬称略	
佐々木 尚	高36		



百周年記念式典に思う

元同窓会関西支部長 大久保 吉則 (高5回生)

この度は百周年記念式典が盛大に挙行されましたが、計画・実施に  
関与された関係者各位のご苦勞に際し、同窓生のひとりとして心  
からお礼申し上げます。  
小生実務委員の委嘱をいただきながら、遠地に在るとはいえ、何等  
のご協力も出来ず誠に申し訳なく存じております。  
百年の歴史は古く永く、卒業生も二万三千余人にも及べば、故人と  
なられた方々も多く、在校時代やその後の様子を知らずには百年  
史による他はないようです。それについても、母校に寄せる思いは、  
同期の卒業生や在学時代の先輩や後輩に在ると思いますが、今後の変化  
する社会の中で、佐沼高等学校卒業生や在校生は「校訓」を胸に共有  
し、輝かしい伝統を次代に学ぶ入学生に継承させねばならないと信じ  
るものです。

記念祝賀会は、グランドホテル鹿野(同期生経営)の一、二階で午  
後五時三十分より開会され、同窓会長片平恩師、中嶋校長先生の挨拶  
で始まり、宮城県知事茂野様の祝辞と続き、テニールごとの卒業同期  
の連う方々の各自在校生時代の話がはずみ、時間を忘れて楽しいひと  
とを過ごしました。小生が祝賀会の締めめの万歳のご指名をいただき  
ましたので、校歌の一部を引用させていただきます。「いさよしが佐沼  
みずみずしが佐沼、輝かし我が佐沼高校の益々の発展と、本日参集  
の諸君の幸福を祈りて……」と万歳を三唱して開会となりました。

本部を飾る

創立100周年記念会報紙への  
大久保吉則初代会長(高5回)の寄稿文 上段

110周年開校記念講話時の  
齋藤洋一先生(高5回) 中段

関西同窓会創立20周年記念総会の模様 下段

閉会後、同窓生は本当に良いものと思ひ関西に帰り、郷里への郷愁を  
さらに強く感じました。

私は昭和二十六年の創立五〇周年記念の年に入学ですが、五〇周年  
記念式典の記憶はほとんどありません。前年の昭和二十五年の県大会  
で陸上部が優勝し、翌年小生は一年より出場し、二年生で三連覇。三  
年生で四連覇、卒業となりました。三年間の連勝には多少の貢献がで  
きたものと四十五年過ぎた現在でも当時を思い出し、嬉しく思ってい  
ます。もう一つは当時の全校マラソン大会で一年より三連勝させてい  
ただきました。現在になっても在学中に自分の記憶に残る思い出が出  
来たことは、人生にとって高校時代を思い出す宝になったと満足して  
います。一心一意を大切にしたいものです。

末筆ながら、この度の創立百周年記念式典を期に佐沼高等学校が宮  
城県の雄として、文武共に益々繁栄されますことを、遠き関西の地よ  
りご祈念申し上げます。  
(平成十四年度まで・同窓会関西支部長)

110周年開校記念講話

『私の人生から』

齋藤洋一氏  
(高5回生)



今年の開校記念講話は、神戸大学名誉教授で、『さくらさき未来塾』理事長齋藤洋一先生をお迎えし、「私の人生から」と題して、お話をいただきました。昭和六十一年に引き続き一回目になります。

先生は昭和八年、佐沼の「出身、本校の新制第四回生で、卒業後東北大学医学部に進まれ、東北大学助教を経て神戸大学医学部教授、同附属病院院長を歴任

された現在に至つていまもなお八十歳を迎えられる。これまでの歩みを振り返り、目下の生徒達に対し、準備なされた資料に基づき示唆に富むお話をなさいました。

長寿の人生の有様を示した漢詩から本題に入り、満州で迎えた第二次世界大戦終結時の悲惨な体験から、争いのない永遠の平和を希求する思いを伝えました。日本に戻り、学制改革もない本校に入学して通じた高校時代のお話では、生徒会長になり、当時の校長先生に男子生徒の長髪を認めるよう働きかけたエピソードも紹介されました。

医学の道に進んでからのお話として、医師の理念を比較を用いたわかりやすい表現で説明され、次に「私の倫理」(市場原理とプロの倫理)に言及なきいしました。お話し熱帯病、臓器移植、生体補助医療、緩和期医療と現在の医療が抱えている様々な問題を語りかけ、講話を締めくくりました。

大変興味がよく、ソフトなお話で、今後の生き方を模索している高校生にとって大いに勇気づけられる内容だったと思います。

# 佐沼高等学校 創立20周年

## 関西同窓会

宮城県佐沼高等学校同窓会は、昨年九月一日に設立20周年を迎えられた。今年、平成二十五年、四月十四日、創立20周年を記念した第十回の総会・親会が盛岡市の大森リゾートホテル、三十三階の「三十三」で盛大に開催された。昭和三十三年に東京から関西に遷された高5回の大久保吉則氏が起人となり、中41回の高橋守氏、高8回の大久保吉則氏、高11回の洪信雄氏が呼びかけ、会則や名簿の作成にあたられた。その「起人」の足跡は、いかにわたりであったが、想像に  
つかない。  
として平成四(一九九二年)九月五日、大久保吉則氏を初代会長に選出し、関西同窓会を創出した。

それ先立つ(三)年、五十三年前に30回卒業生、同窓会役員を代表して、昭和30回の洪信雄氏が中心となり、昭和三十五年より、同窓会関西支部を結成したとの記録がある。とすれば五十三年の歴史になるが、その歴史は詳らかではない。

関西同窓会は、平成十四(二〇〇二)年に一度休会したものの、翌年には、代目会長に大山宏(高7回)が就任され、今日に至っている。現在の会員数はおよそ八十名である。

歴史は、昭和三十五年頃、鈴木氏、野村氏、洪信雄氏、中嶋氏が中心となり、同窓会関西支部を結成したとの記録があるが、実態を予言記録がなく不明となっており、今回は、明確な方針作成し、実質的活動を開始し、継続していることを尊重し、上記日付を成立日とし20周年行事といたします。ご水をお呼びいたします。

本会は、一年一回の総会・懇親会、同窓会報の配布などさまざまな活動を行っており、さらに佐沼高校の生徒が参加する入部イベント大会やその他行事も行われ、場合によっては、支店も行って来た。ラッパ、ピ、陸上、ボートに加え、今年三月十日に行われた、東日本大震災復興支援チャリティコンサートなどの実績があります。これらの活動の中で、地ではありますが、同窓会報の配布は多くの会員の方々に読まれており、会員の皆様の母校への思いが感じられます。これは、本部同窓会

「あいさつ」

会長 大山 宏(高7回)

発行所 宮城県佐沼高等学校 会利之  
同窓会 高橋勝之  
発行人 高橋勝之  
編集人 千葉安

# 30年のあゆみ

設立後20年は「20年記念会報」より転載

発起人大久保吉則氏(高5)のお声がかりのもと、高橋守、大友克朗、齋藤良逸、渋谷謙(中41回、高8、高8、高11回)の各氏が集まり同窓会会則や会員名簿を作成。折りしも佐沼高校1991年10月27日の全国ラグビー宮城県大会で優勝。12月28～30日花園ラグビー場の全国大会に登場、1回戦8-0で倉吉東高に勝ち2回戦で優勝候補目黒高と対戦、6-10で惜敗。同窓会有志で大久保吉則氏寄贈の「必勝!!佐沼高校(同窓会関西支部)」の横断幕で熱烈応援。そのあと佐高ラグビー部の皆さんと京都市内で慰労会をしました。

## 総会・懇親会の推移

第1回 1992.9.5日 大久保氏を初代会長に選出。9月1日付けで関西同窓会が正式に発足。

- ・運営の基本となる会則の制定 ・会費(年2000円)の徴収 ・同窓会名簿の作成 ・佐沼高校同窓会会報の配布
- ・総会の定期開催 ・事務局の設置(当面大久保氏宅に置く) ・母校の支援 などを活動の柱とする。

第2回 1995.2.4 17時～ 銀座アスター(大阪市北区)、9名出席、事務局を大友副会長宅へ。

第3回 1996.2.17 17時～ ビアレ스토랑スーパードライ(大阪市北区)8名出席

第4回 1997.4.19 12時～ 荒磯(京都市中京区四條烏丸)11名出席

第5回 1998.6.6 17時～ 銀座アスター(大阪市北区)、6名出席

第6回 1999.7.11 12時～ 日本料理 河久(大阪市北区)、9名出席

第7回 2000.6.18 12時～ 中国料理 大成閣(大阪市中央区)、6名出席

第8回 2001.6.3 12時～ ビアレ스토랑 ニュートウキョウ(大阪市中央区)、7名出席

(2002年休会)

第9回 2003.3.9 11時30分～ 多幸梅(大阪市北区)、8名出席 大山 宏氏(高7)を2代目会長に選出。大久保氏は顧問に就任

第10回 2004.1.17 12時～ 梅の花(大阪市北区天満橋)、5名出席

事務局 大友克朗副会長から齋藤良逸副会長 同氏宅へ変更

第11回 2005.3.6 12時～ 美々卯(大阪市中央区本町)、6名出席

第12回 2006.3.5 12時～ ホテルグランピア大阪、中国料理(大阪北区)9名出席

会計担当 渋谷謙氏から大友克朗副会長兼務へ

高校総体(陸上:長居競技場、ボート:滋賀県瀬田漕艇場)応援と差し入れ

第13回 2007.2.3 17時30分～ 豆とん庵(大阪市北区堂島)、9名出席

第14回 2007.11.11 12時～ 京四季(京都市中京区)、7名出席

第15回 2008.11.30 12時～ うお利(宇治市宇治又振)、7名出席

第16回 2010.1.24 12時～ 柿右衛門 文禄亭(守口市本町)、4名出席

事務局 齋藤副会長から大友副会長 事務局再度大友氏宅へ

事務局担当幹事 高橋正義氏(高18)新任

第17回 2011.1.16 12時～ 鳥せい本店、(京都市伏見区)、5名出席

第18回 2012.1.28 12時～ ホテルニューオータニ、叙々苑、(大阪市中央区城見)、5名出席

事務局 高橋氏宅に置く

第19回 2013.4.14 11時30分～ 大津プリンスホテル37階「ニューヨーク」、琵琶湖ミシガンクルーズ

\*名簿登録上の会員数は発足以来80名前後で大きな変動はありません。(大友記)

第20回 2014.4.5 12時～ 銀座アスター あべのハルクス近鉄本店12F(大阪市阿倍野区)、10名出席

第21回 2015.6.6 12時～ 京湯元ハトヤ瑞鳳閣 永寿庵(京都市下京区)、9名出席

第22回 2016.4.2 12時～ 京湯元ハトヤ瑞鳳閣 永寿庵(京都市下京区)、11名出席

第23回 2017.4.8 12時～ 京湯元ハトヤ瑞鳳閣 永寿庵(京都市下京区)、9名出席

高橋正義氏(高18)を3代目会長に選出、大山宏氏は顧問に就任

事務局担当幹事 畠山量氏(高26)新任 事務局を畠山氏宅に置く

2017.9 25周年記念会報発行

第24回 2018.5.13 12時～ 京湯元ハトヤ瑞鳳閣 永寿庵(京都市下京区)、9名出席

第25回 2019.4.7 11時半～ 京湯元ハトヤ瑞鳳閣 永寿庵(京都市下京区)、9名出席

(2020年～2022年は新型コロナウイルス感染症を考慮し中止)

2022.10 30周年記念会報発行

## 【分科会活動 散策の開催】

第1回 2014.10.25 大津南部こだわりウォーク 5名参加 JR・京阪石山駅～膳所城跡～なぎさ公園～瀬田の唐橋～石山寺

第2回 2015.4.4 サントリー山崎蒸留所と天王山散策 6人参加 妙喜庵～離宮八幡宮～サントリー山崎蒸留所～宝積寺～天王山

第3回 2015.10.3 秋の長岡京歴史散策 7人参加 向日市文化資料館～桓武天皇皇后墓～竹林公園～サントリー京都ブルワリー

第4回 2016.11.20 秋の鞍馬寺散策 8人参加 鞍馬山～鞍馬寺～曼殊院～詩仙堂

第5回 2017.11.19 秋の奈良公園散策 9人参加 奈良公園～興福寺～春日大社～若草山～東大寺大仏殿～二月堂

第6回 2018.11.11 秋の京都・東福寺散策 6人参加 東福寺～三十三間堂～豊国神社～方広寺～サントリー京都ブルワリー

第7回 2019.11.10 東映太秦映画村と仁和寺散策 7人参加 東映太秦映画村～広隆寺～仁和寺～妙心寺～退蔵院

## 写真で辿る佐沼高校関西同窓会30年

1991.12 第71回全国高校ラグビー大会に23年振り5回目の出場を果たした母校ラグビーチームの応援に来られた氏家同窓会長他皆さんへの対応の一席と応援の写真。大久保吉則初代会長が指導力を発揮し同窓の面々に声をかけ支援体制を生まれ、急遽横断幕をポケットマネーで発注し関西同窓の総意として応援を盛り上げていただきました。



高14回（伊東卓夫氏、上原米蔵氏、鈴木次郎氏、鈴木徹氏、寺村治男氏、山内智雄氏）皆さんの同期会の写真。上段は1990年滋賀県大津市の瀬田船岩花火大会の時、下段は1994年京都三条ホテルでの写真です。





2007.11.11 佐高関西同窓会  
2007.11.11 総会・懇親会 (京四季)



2008.11.30 総会・懇親会 (うお利)



2010.1.24 総会 (柿右衛門)



2012.1.28 総会 (叙々苑)



2013.3.10 第3回とどけ和の響き (玉水会館)



2013.4.14 20周年記念総会 (大津プリンスホテル)



2013.4.8 大久保吉則初代会長寄贈横断幕



2013.4.14 20周年記念総会 (大津プリンスホテル)



2015.6.6 総会（永寿庵）



2015.6.6 総会後の散歩（東本願寺の庭園渉成園）



2016.4.2 総会（永寿庵）



2016.4.2 総会後の散歩（東寺）



2017.4.8 総会（永寿庵）



2018.5.13 総会（永寿庵）



2019.4.7 総会（永寿庵）



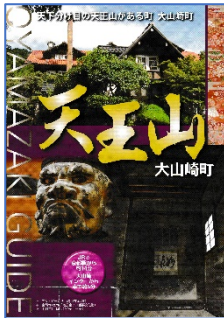
2019.4.7 総会後の散歩（哲学の道）

# 思い出の散策ツアー

①2014.10.25 JR 石山駅芭蕉像前と石山寺



②2015.4.4 サントリー山崎蒸留所内試飲コーナーと宝積寺



③2015.10.3 長岡京 桓武天皇皇后墓



④2016.11.20 詩仙堂



⑤2017.11.19 奈良公園若草山と東大寺



⑦2019.11.10

東映太秦映画村と仁和寺



⑥2018.11.11 東福寺とサントリー京都ブルワリー





## 会員からの寄稿

### 大山 宏 (高5回 佐沼出身)

月日の経つのは早いもので30周年になりましたね。年を取るほど時の流れが速くなるそうですが、実感しながらの日々です。

私、一昨年の12月～昨年の8月までの間高熱を出し誤嚥性肺炎との診断で入院4回繰り返しました。その後、恐る恐る過ごしているせいか幸い発熱はありません。家内も多くの持病持ちで夫婦そろって病院通いの絶えない日々といったところですか。コロナは今のところ無事です。と言うことで30年史掲載に適したイベントが見当たりません。

かといって、ここで“ヘコタレ人生”を送ってしまうのは勿体なく残念です。情報化花盛りのご時世、体力が衰えて家にこもりながらもパソコン、スマホなどを駆使しこれまでにない充実した生活をとっていますが達成率20%程度(もっと低いかな)、一筋縄にはいきません。これからは、同類相憐れむ家内と2人で頑張るしかありません。物理的頑張りでは無理でも精神的にヘコタレルことがないように頑張るつもりで、自己満足しています。

コロナ発生前の良き日に行われた名所・旧跡巡りの写真がありましたので、三葉提示させていただきます。



2014.4.5 関西同窓会総会



2016.11.20 分科会秋の鞍馬散策



2015.10.3 分科会天王山でビール

### 大友 克朗 (高8回 佐沼出身)

同窓会が結成されてから30周年という節目を迎えたとのこと。小生も設立にかかわった一人として少々その頃を振り返ってみたいと思います。この会を作る必要性については多くの先輩方が機会ある毎に話題に乗せておられたようです。少しずつ盛り上がって来た機会をとらえ実現に向け具体的に動き出したのが故大久保良則(高5)さんでした。何人かの後輩が種々の事務的な作業に協力しまして比較的順調に進んだように思います。会員の名簿や会則も整備され同窓会としての体裁もとのりました。実際にゆっくりとしかし堅実に一步を踏み出しました。その後会員数に変動があるもののリーダーである歴代の会長のリードのもと、今に到っています。

これからは歴史ある佐沼高校の関西支部として会員数の維持や運営にエネルギーを注ぐ努力が必要とされます。会の一層の発展を祈っております。(写真は大阪市北区北新地のスタンドバーのお店で畠山事務局と)



## 齊藤 良逸 (高8回 米谷出身)

### 《2人の級友》

昭和31年3月卒業(高8)の3年1組(48名)の級友のうちから2名の思い出を記してみます。何分にも60年以上も過ぎし日のことで、不鮮明な点はお許し願います。

最初は石ノ森章太郎(石森町出身:小野寺章太郎)、彼は在校中から非常にきれいな画を書いており、級友一同驚嘆するばかり。佐高卒業後、すぐ上京し漫画家の梁山泊である椎名町の「トキワ荘」で出版社と契約しプロ活動をスタート。2~3年後のある時「一度『トキワ荘』へ見学(?)に來い」との呼び出しがあり級友数人と出かけてみると、堂々としたプロ画家にヘンシンしている姿に仰天。長居は弟子達の作業の邪魔になるので早々に「トキワ荘」を退散しタクシーで池袋駅西口の街へ向う。我々貧乏学生には経験のない夕を過ごしたと覚えている。無論彼のおごりでどんな酒をどれだけ痛飲したものは全然記憶なし。余りにも早い旅立ちに無念でなりません。

2人目:坂正直(上沼村出身:旧姓畠山)、彼は佐高卒業後広島海上保安大学校進学、同大学卒業前の航海実習でサンフランシスコまで行き、その帰国後の東京での再開が思い出されます。

東京に着いた彼から級友に連絡があり、「アメリカの土産話や土産品があるので集まろう」とのことで都内の某所へ数人が集合(ある級友の下宿先だった気がする)。その時の土産とは我々には縁遠い「ジョニ黒」。土産話と共にあつという間に胃に納まったという次第です。海上保安庁入庁後の彼の活躍は佐沼高校開校記念講話(平成28年度)で本人が話されていました。

長い人生の中の青春のヒトコマの思い出を記してみました。

## 高橋 静雄 (高10回 佐沼出身)

### 《「地方史」の大切さ》

退職して20年、仕事は殆んど忘れて仕舞ったが、欧州出張時に会った人々の郷土に対する愛着と誇り、住まう地域の豊富な歴史知識に圧倒された記憶は今も消えていない。

翻って自分の無知に等しい地方史、教科書を暗記するばかりで、遠い見たこともない西日本の歴史を追い掛けていただけではなかったか。戦後は反戦と唯物史観一辺倒の教育だったから、合戦の多い地方史は取り上げ難かったのかもしれないが、学校で学んだ記憶はない。ところで昭和21年4月最後の佐沼国民学校に入学し、H君と席を並べた。後年分ったのだがH家は佐沼城の家老職の家系で、曾父上は郡長を勤めた折旧制中学を(設置が有力だった登米町から)佐沼に誘致した方だった。同君は驚くほど歴史に詳しく、佐沼城が天正19年(1591年)伊達政宗に攻略され落城した際、討ち死にした2000を超す遺体が迫川に投げ込まれ、川は何日も血で赤く染まったと教えて呉れた。子供心に大きなショックを受け、長く心に秘めた俣時が過ぎて行ったのだった。20年程前、家の近くの古書店で偶然紫桃正隆著「仙台領の戦国史」(昭42刊 仙台宝文堂)を入手、そこにはH君が云った凄惨な攻防戦が詳述されており、改めて迫川の状景が蘇った。個人的にはやはり歴史は地元の事から学び始め、次第に国史に到るのが理想的であり興味も沸くと思われる。

2年後に多賀城跡に南門が復元されると聞く。いづれ政庁も復元されるに違いない。近くにある「東北歴史博物館」も巡り地方史を学ぶ子供たちの喜ぶ姿を想像し駄文を終えたい。



(現在の佐沼城の跡)

## 上原 米蔵 (高14回 米山出身)

《関西同窓会員の皆様へ》

先日新聞記事の見出しで「港町365」表題に、人間は何のために勉強するのかと問われ、映画「男はつらいよ」の主人公、寅さんはこう答える。難しい問題にぶつかった時、「勉強した奴は自分の頭できちんと筋道を立てて、『こういうときはどうしたらいいかな』と考えることができるんだ」と。時間の流れの上のある一点、現時点新型コロナウイルス感染状況の中この大変な際、皆様何を考えどんな判断を下し、気を引き締めてこられたのだろうか。

私は高十四回卒業の七十九才の老人です。あまり考えておりませんでした。でも新聞記事での様々ないろいろな人の経験、体験談は一応目を通してきましたつもりです。その人達の話で人生には目標とすべきものが二つある。第一自分の欲するものを手に入れること、第二それを楽しみ味わうことです。当年七十九才の老人は第一の欲望よりもむしろ、第二の楽しむような生きかたに重きをおきたいと思えます。

生きがいのない人生のむなしさに苦悩している現在、何かを頑張ってやるようにと自分に発破をかけ、自分よりも他人のために役立つように考え、そのことに興味を持つと日々思っております。

具体的には、関西同窓会の会員数拡大と同時に、此の会の高齢化などの問題があります。その為には、より大きな、より豊かな、より満足すべき、楽しむための活力を与えてくれる、若い情熱をもった会員と共に、心に平和、勇気、健康で満たしてくれる活動的な人を望みます。

是非関西同窓会私共の今までのやり方を反省し、本来あるべき姿に、新たな心構えでの姿勢を正して取組みたいと思えます。又各会員が最大限の生きる喜びを味わえるように願ひかなうようにと願っております。



## 山内 智雄 (高14回 宝江出身)

《いわば威者の如くものを言う人たち》

私は小年の頃より、否中学生のころより「ニエチェ」が好きでした。虚無主義のニエチェです。そしてクロボトキン、大杉栄もです。

「ニヒリズム」なんと素敵な言葉でしょう、虜になってしまいました。

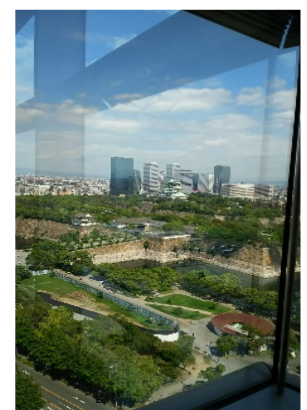
現在でもそうです、あらゆる権威、権力を否定します。嫌なのです。政治家、社長、学者、教師、医者、会長、委員長そして有名人、私は嫌です。全然偉いとは思わない、なんと哀れときえ思えます。既成の価値基準、モラル、約束事、上下関係、全て無視です。

それでも私はこの社会で生きなければならない。どうすべきか、まず私でも生きられる社会の隙間を見つけ、そしておのれの空間を作る事です。でもこれはかなり難しい。それより社会から一歩外に出る事です。すると山巔から下界を覗くより、社会がとっても観察できます。魂も自由になります。何事も可能になる。私のまわりには多くいます。みな自由人です。ひとりそして世間を恐れぬ。いまでも私はニエチェが好きです。

## 氏家 征夫 (高16回 佐沼出身)

来阪して50余年となり、年々、出来ることも少なくなってきました。しかし毎日の情報や、新たな発見などでマアマア楽しく暮らしています。なるべく永く健康を維持し、楽しい生活を送りたいと思っています。皆様のご健康をお祈りいたします。

(大阪市歴史博物館より大阪城、ビジネスパーク方面をのぞむ。)



## 高橋 正義 (高18回 南方出身)

### 《コロナ禍と小さな図書館》

新型コロナウイルスがホモサピエンスに挑んで3年の月日を重ねるもまだ進行中である。

人身の心を不安に煽り分断をも厭わず日常を非日常にしたコロナ禍の昨今の世情。私も無趣味とは言え小旅行や心許す友達との食事の愉しみをも奪われ、挙句の果てに持病に加え不要不急の外出制限で運動不足によるコロナフレイルを危惧する日々に、いつもは通り過ぎる小さな図書館に足が留まった。書物は知の五感を訴え、古書は人類知の蓄積と言われます。図書館は真に知の邂逅との場として多くの人々に限らない潤いを満たしたに違いないと思います。教科書も満足に読んだ記憶がない私がふらりと足を踏み入れた図書館。時は令和3年、京都大文字の送り火も過ぎて初秋の声聴く9月でした。古事記の古典から会社の先輩森村誠一、佐高後輩の直木賞作家熊谷達也、養老先生、寂聴さん等々の乱読。読後は虚しく枯れた私の脳には記憶されず右から左スルーした本は90冊を数えました。もう直ぐ1年、果たして知の五感は、人類知は如何や??75歳の右脳も左脳働かず枯脳に覚えたのは眼精疲労が確実に記憶に残り目薬を点し白内障を憂う私でした。(写真は利用する枚方公園分室の図書館です。)



## 前川 (旧姓菅原) ルミ (高20回 佐沼出身)

### 《感謝》

子供の頃「ご飯炊きのおばさん」になりたかった。その一端を窺ったのが、佐沼高校の部活の合宿だ。所属クラブの演劇部は勿論、縁あって応援団、野球部、ラグビー部の合宿を手伝った。調理は勿論献立を立てる作業から楽しかった。

長じて働いた職場では、宿直制度があり、彼らのために朝食を用意し喜ばれた。

六十歳定年退職後、「ご飯炊きのおばさん」の夢が甦り、調理師免許を取得した。自衛隊では千人の食事を作り、京都の飲食店では京総菜を作った。そして今、保育園の給食のお婆ちゃんとして土曜日だけ厨房で働く。

これもあの時、佐沼高校の部活の皆様が喜んで下さった嬉しい経験のおかげと感謝している。皆様ありがとうございました。

もじもじと園児一人がやってきて「今日の給食美味しかったです。」



(今は琵琶湖のほとり、大津市に住んでいます。)

北村（旧姓嶋村） 洋子 （高25回 浅水出身）

この写真は10年前くらいにガーデニングボランティアをしていた時、仲間と勉強会を兼ねて行った、メナード青山リゾートのハーブガーデンでの一枚です。

当時はみんな元気でバリバリ頑張っていました。近年は月一回情報交換！？それは言い訳で単なる井戸端会議で、カラオケボックス集会をしておりましたが、新型コロナウイルスの為、その楽しみも取られ、ひっそりとくらしております。

（向かって右端、黄色っぽい服が私です。）



秋山（旧姓佐々木） 真由美 （高26回 佐沼出身）

大学時代に主人と知り合い、主人の故郷である京都府に昭和53年3月に嫁ぎました。以来44年が経ち、息子二人と娘一人はそれぞれ独立し地元に住んでおります。

次男が25才の時ミャンマーに挑戦の旅に出、5年間滞在していました。その時2017年息子に会いに当地を訪問したのが、今となっては軍政前の平和な時で幸いであると思います。ミャンマーのヤンゴン発展途上の昭和時代のようなゴミゴミしてとても暑いところでした。そして、バガンというミャンマーの仏教の聖地と言われる所に連れて行ってもらいました。何千ものパゴダ(仏塔)や寺院の遺跡群に感動したのを覚えています。

次男は間もなく引き上げ、地元でスポーツバーを経営しコロナに影響されながらも頑張っております。



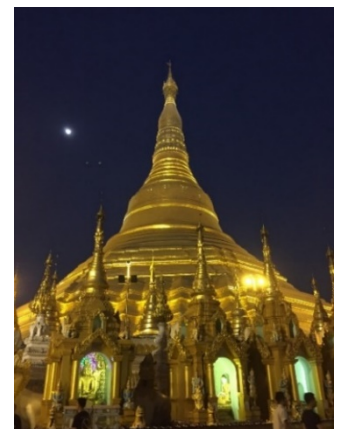
(バガンの仏塔群風景)



(バガンのアーナンダ寺院前で次男と)



(ヤンゴンのシュエダゴンパゴダ前で次男と)



## 小野寺 昇 (高26回 上沼出身)

### 《佐高時代の思い出》

佐高時代に思い出に残る先生が二人います。英語の佐竹先生と美術の小関先生です。佐竹先生は、英語圏の国の文化を教育に搦めて、あーだ、こーだと解説し、ちっとも教科書を進めてくれませんでした。大学受験の授業を期待していた生徒にはきっと不満だったと思っています。時代が進み、学生さんに教える立場になってから、英語は覚えるものではなく、使うものと当時佐竹先生が教えてくださったことを理解しました。佐竹先生の先進的な授業が懐かしいです。

もう一人の先生は、美術の小関先生です。小関先生は、青色をブルーと発音していました。万年筆を愛用するようになってから妙にブルーのインクが好きになり、セルリアンブルーと発音して粋がっていました。もう青春をすっかり超えて人生の後半を生きています。ブルーのインクも思い出とともに大切に仕舞っておこうと思っています。



(現在の私です。)



(右4枚の写真は2015.10にニュージーランドの学会に参加した時の街の様子と私です。)



## 川上 (旧姓沼倉) 達子 (高26回 宝江出身)

「アテンションプリーズ」1970年に放送された客室乗務員のテレビドラマです。

今でいうキャビンアテンダント(CA)のことです。小学生の頃から淡い憧れを持っていたスチュワーデスという職業が、そのドラマを見て現実的な目標となりました。

佐高高校の担任は3年間ずっと菊田先生で、先生には胸の内を全て話し、そんなの無理だという意見もあるなか、何かと相談にのっていただき、アドバイスもしていただきとても感謝しています。

当時の日本航空の受験資格は22才まででした。その為何度もチャレンジできるように外国語学校に進学する決断をし、高校卒業の最初の試験で合格。本当にラッキーでした。

「達子」の名前の由来は「達成」からきているという父の言葉をずっと胸に秘めていて、父も背中を押してくれていたのが喜びもひとしおでした。その時ほど達成感を味わったことはありません。試験は5次まで。英会話の試験官は初めて見る透き通るような青い目で、ドキドキしたことを覚えています。

合格発表は電報で、「サイヨウナイテイ アトフミ」ニッコウ(採用内定 あと文 日航)1974年8月20日の飛び上がりたような喜びを今も忘れられません。

訓練生活は厳しく、訓練生はエレベーター使用禁止。走ってもいけない。常に美しく階段上がること、5階か6階まで毎日その繰り返し、テストも毎日のようにあり、クリアしないと失格となるので、日航にいたほぼ5年間はテレビのない生活をしていました。

世界のお酒、チーズ、オードブルなどの食事、接客、英会話、アナウンサーによるアナウンスの仕方等々、様々な教育をしていただきました。当時は必死で何も考えるゆとりはありませんでしたが、今となってはこんなに幸せなことはないと、50年近く経った今でも日航愛でいっぱいです。

1975年4月4日(シアワセの日)、72便ホノルル行き青山たかし機長による初フライト以来、色々な国々に行きました。ブラジルのリオデジャネイロの大きなキリスト像などは、2016年のオリンピックの放送で懐かしく見ていました。アクシデントも少々ありました。ドイツのハンブルク発の便に爆発物を仕掛けたという脅迫があり引き返したり、ホンコンでは胴体着陸(?)というおそれがあったり大変でしたが、今となっては忘れられない

思い出となりました。

色々ありましたが、今思うと世界で一番素敵な国はニッポン！お行儀が良く、食べ物美味しく、治安が良く、こんな良い国は何処にもありません。仕事を通して日本の良さを痛感させられました。

結婚して退社後はより実家から離れた京都での子育てとなりました。親戚も友人も知人もいない場所で、ご近所の方々に助けられての生活でした。私にとっての宝物は「人」です。小学校時代からの幼なじみ、中学、高校時代の友人、会社の同期も自慢の人々です。

今は2人の子供も自立し、15年間同居した夫の両親も見送り、夫との2人暮らしです。サルコイドーシスという難病と向き合いながらも、ほんの1ミリでもいいから今日より明日の方が上向きの人生でありたいと努力し、「今まで良く頑張ったね。」と自分自身を褒めてあげたりして、活力を得ています。毎年来る結婚記念日には「1年間よろしくね。」を合言葉にお祝いし、感謝し合いながらの幸せな日々です。「多くを求めなければ幸せはどこにでもある」、私の好きな言葉です。

追記 8月11日に96才でご逝去された森英恵さんのご冥福を心からお祈り申し上げます。

“ハナエモリ”デザインの制服(5代、6代)を着用させていただきありがとうございました。



(ドイツのフランクフルト空港にて)



(カナダのビクトリア空港にて)



(パリのシャンゼリゼ通りにて)



(大阪国際空港にて、左端が私です。)



(ブラジルのリオデジャネイロにて、左端が私です。)

### 畠山 量 (高26回 岩手県藤沢町出身)

#### 《3回の母校応援の思い出》

昭和52年10月に大阪に転勤して以来約45年、関西で母校の応援をする機会が3回ありました。その3回の思い出を書きます。20周年記念会報の寄稿文と内容が一部重複します。

1回目は平成3年12月、第71回全国高校ラグビー大会に23年振り5回目の出場を果たしたラグビー部チームの応援です。対戦相手は鳥取県代表の倉吉東高校、押し気味に試合を進め、8-0の完封勝利の瞬間、母校の勝利とはこの様に感動するのかと初めて味わう高揚とした気分でした。試合会場の近鉄花園ラグビー場は今大会より改修され、新装のメイングラウンドは一年を通じて緑の芝生に張り替えられ、選手達は深緑の芝生上でのプレーと

感動の勝利が一緒になって記憶に残っている事でしょう。

2回目は平成18年8月に長居陸上競技場で開催されたインターハイ陸上競技大会に出場した時の応援です。この大会には母校から沢山の種目に選手が参加され、当日は女子走り幅跳びと男子走り高跳びの競技に各1名の選手が出場し、メインスタンドで応援しました。緑色のユニフォームが懐かしく、助走時の拍手で少しでも遠くへ高く跳べと、心で声を発しました。当陸上競技場は翌年に世界陸上選手権大会の開催を控え、トラックが同大会仕様のトラックに改修され、選手達はその世界標準のトラックを肌で感じられる幸運なインターハイになったと思います。

3回目は平成28年8月に和歌山市の紀三井寺運動公園陸上競技場で開催されたインターハイ陸上競技大会に出場する女子走り幅跳び選手2名の応援です。それは3年生の佐々木明日香さんと1年生の高橋瑞希さんです。

高橋さんは惜しくも予選突破は成りませんでしたが、佐々木さんは予選で自己ベストの記録を更新し決勝へ進出しました。決勝の2回目の試技で3位の記録を確保し、結局その記録で3位が決定、表彰台行きを達成しました。

小生が感動したのは3位入賞はもちろんですが、30度を越す炎天下の条件で、予選の試技でこのままでは予選突破は厳しいと思われた後半の試技で、自己ベスト記録を更新、予選グループのライバル達をゴボウ抜きし一気にトップに立った跳躍を見た時です。土壇場で自己ベストを叩き出した精神面に感動しました。

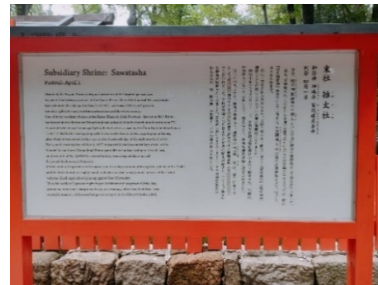
以上、母校応援の機会をいただいた選手皆さんに感謝です。

(写真は、競技場前正面に駐車された和歌山市在住の鈴木徹氏(高14回)所有の車です。)



## 〚〚〚 関西なるほど探訪 〚〚〚

\*\*ご存知ですか\*\*花園は高校ラグビーの聖地として誰でも知っていますが世界遺産京都 下鴨神社境内内の糺の森に「関西ラグビー発祥の地」「第一蹴の地」の石碑と雑太社がW杯から熱い注目を。1910年9月10日旧制第三校と慶応義塾が楯円球を弾んだ「聖地」とし建立されました。近くに訪れるときは是非覗いて見ては如何でしょうか。(高橋正義会長記)



「ひんがしによき国ありて」と歌いだす校歌、佐沼高校生であれば必ずや脳裏に刻まれる出だしのフレーズ、校歌作詞者の折逞空(折口信夫)先生の出生地は大阪市です。先生の生誕記念碑が大阪市浪速区の鷗町(かもめまち)公園内にあります。その公園はJR環状線今宮駅から北西方向に徒歩で数分の距離に位置し、周囲を民家やアパート群に囲まれた広さ50×100m程の小さな公園、訪れた時は雑草が刈り取られた後で人の手で維持されているのが伺えました。同窓会名簿の沿革史概要によると校歌制定は昭和26年10月、先生は昭和28年9月3日に66歳の若さで生涯を終えられたので、校歌は先生の晩年に作詞されたものと今回認識したしだいです。(事務局畠山記)



### 編集後記

寄稿文をお寄せいただいた皆様、貴重なお写真をご提供いただいた大友克朗様、大山宏様、寺村治男様、そして高橋正義会長、ご協力ありがとうございました。それから佐沼在住の同級生にお願いして写真を撮ってもらいました。大勢の方々のご協力により、試行錯誤の上、記念会報誌を無事発行するに到り感謝の念しかありません。関西同窓会30年の内、事務局として数年関わらせていただき、設立当初からの諸先輩方には遠く及ばないまでも、僅かなりお役に立てたのであれば望外の喜びであり、当記念会報誌が会員皆様方のコミュニケーションの一助となれば幸いです。編集構成に至らぬ点ご容赦願います。今後もよろしくお願いたします。

連絡先：〒583-0033 大阪府藤井寺市小山7-22-8(畠山方) 佐沼高校関西同窓会事務局 TEL072-955-3166